

10月1日に「富谷宿・街道まつり」を実施！！

本年も富谷市主催による「富谷宿・街道まつり」が「とみやど」を会場に実施されます。10月1日(日)午前10時からセレモニー、各種演目、出店で夕刻までにぎやかな一日となります。(写真は去年の様様)

富谷市日中では昨年同様、「上海郵」さんの全面協力のもと大好評だった“焼小籠包”“煮卵”等を販売する予定です。ご家族やご友人と遊びに来てください。また留学生も参加する計画です。皆さん、歓迎！歓迎！



TNC
通信
2023
9月号

県女性委の「七夕・ゆかた着付け体験会」に協力!!

8月7日、県民会館会議室で恒例の七夕行事を企画。留学生や宮華女を招いて“ゆかた着付け”を提供。富谷市日中の水戸、横山、板垣、外山、高橋さんが応援しました。



写真は富谷市日中主催の「国交正常化50周年写真展」に出品された陳瑞元氏の「夢江南」

『秋の漢詩』 「楓橋夜泊」張継

月落烏啼霜天滿 江楓漁火對愁眠
姑蘇城外寒山寺 夜半鐘聲到客船

【解説】教科書で学び有名な七言絶句。張継は中唐の詩人であり官僚。晩秋の詩である。「月が沈み夜空にカラスが鳴き、寒気が空から地上に満ちている。川辺のカエデと漁をする舟の赤々と燃える火が、うとうとしている目の前に広がっている。この蘇州郊外の寒山寺からは、夜中につく鐘の音が停泊している船にまで響いてくる」……船泊した楓橋で感じた憂愁の思いが伝わってくる。

『2035年の中国—習近平路線は生き残るか』(宮本雄二著 新潮新書 902円)



著者は元駐中国大使。まず、2035年とは中国共産党が公約として「二つの百年」の目標を掲げ、一つ目が共産党建党百年の2021年に「全面的な“小康社会”をつくる」でありGDPや先進国入り、を果たした。次は2049年までに「富強の民主的で文明的な調和のとれた社会主義現代化の強国」であり習近平はそれを35年迄と50年迄の二段階に分けた。2035年は「中国の夢」が半ば実現し、世界最高峰にまい進する祖国への中間点なのだ。しかし果たしてそれが国民の総意なのか、その力があるのか。国内事情、経済、ロシア、ウクライナ、日本、アメリカとの関係を歴史的経緯や毛沢東、鄧小平との対比を通して分析する。(M)

県協会が副総領事招き、総会を開催！

8月26日、宮城県日中友好協会(佐々木謙会長)の2023年度総会が東京エレクトロンホールで行われ、来賓に若生市長も出席。

第1部として新潟総領事館の康暁雷副総領事が、平和友好条約締結45周年を記念しての講演があり、日中間の現代史や宮城と吉林省の関係を振り返りつつ、未来に向け①人的、文化的交流の大切さ②青少年交流の強化③互惠・良好な関係の醸成等を語った。



第2部議案の人事で、富谷から横山弥生さんが副会長に、水戸憲子さんが副理事長に選出された。

§ 中国の七夕節 §

二百万人を超え、盛況だった“仙台七夕”。県協会女性委員会では東京エレクトロンホール会議室で留学生等を招き、恒例の「ゆかた着付け体験会」を企画した。短冊飾りもその一つ。中国では行われないと。留学生は「望日中友好」「合



家平安万事順遂」等の他「イケメンとれんあい」や「早く卒業」など、いかにもZ世代らしい。本家・中国も牽牛・織女の由来は同じだが、娘や婦人が庭でお供えをし、織姫星を祭り、針仕事が上達するように「乞巧」(きっこう・祈る)をする。3千年前の周の時代に遡るといふ。